

成果指標				
成果指標	雨水利用促進関係補助金申請件数の累積			
指標設定の考え方	制度利用者の増加により雨水の有効利用が促進され、節水意識の高揚につながる。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	74	80	85	0
実績	35	40	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	2	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	2	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	日々の節水意識を雨水の有効利用につなげることが事業推進への近道と捉えて、補助制度の周知を図ったところ、今年度における申請件数が増加した。今後は、浄化槽の再利用に伴う衛生面の心配を取り除くことが普及へのポイントと考え、下水道課と連携しながら事業の啓発に取り組む必要がある。補助事業であるため施行確認を厳格に行う必要もあるが、経費を抑えるための工夫であれば、手抜きと判断しない柔軟性もあって然りと考える。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	市民が持つ日々の節水意識を雨水の有効利用につなげることが事業推進への近道と考え、雨水タンク購入時の補助制度があること、さらに下水道の整備後に不要になった浄化槽を改造するときの補助制度を下水道課と連携しながら、啓発を図っていく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	補助制度の周知を図ったところ、今年度における申請件数は確かに増加はしているものの、まだまだ申請件数は低い。この補助制度について、改めて検証する必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。